

# ミニコミ 【子育て版】 火の川

宇土小6年  
堀川百合子さん



**第272号** 【編集発行】熊日宮原販売センター  
八代郡氷川町柵16-3  
TEL 0965-62-3868 Fax62-2867  
E-mail kuma-miya@rainbow.plala.or.jp

## 今日は、イベントが盛り沢山♪

### 復興支援りんご販売

熊日宮原販売センターでは、小布施町の復興支援の第一弾として、「信州りんご3兄弟」と呼ばれている3種類のリんご300kgの販売を行い、利益は小布施町へ寄付いたします。多くのみなさまのご支援を、よろしくお願ひいたします。

・期日: 10月27日(日)  
・時間: 9:00~15:00

【ただし、完売の時点で終了】

- ・場所: 熊日宮原販売センター
- ・種類: シナノスイート、秋映、シナノゴールドの3種類のリんごを300kg販売。ばら売りが基本ですが、5kg箱売りも有ります。なお、りんごは、水害にあった品ではありません
- ・問合せ先: 岩本へ090-3197-7908



#### 【シナノスイート】

「ふじ」と「つがる」を交配させ1996年に誕生。果実は大きく、果汁たっぷり、酸味が穏やかな、柔らかい甘味が特徴。

#### 【秋映(あきばえ)】

「千秋」と「つがる」を交配させ1981年に誕生。三兄弟の中で一番早く食べられる、とてもジュースで、香りも高く、歯ごたえのある甘酸っぱい、りんごらしい味が人気。

#### 【シナノゴールド】

「ゴールデンデリシャス」に「千秋」の花粉を交配して、1983年に誕生。果は大きく、表皮が黄色で、りんごは赤いというイメージとは異なる、三兄弟の中では異色の存在。

### ★小布施行きで感じたこと

小布施で販売した時、宮原のわらしべ市とは何か違う感触があった。おそらくそれは、全く知らない土地・お客さんしかおらず、新鮮な気持ちがあったのと、興味を持つお客さんが予想以上に多かったことだ。

宮原では、知っている人や常連のお客さんが来るのが多かったと感じる。だから、小布施と宮原の人は少し感覚が違うことが分かった。今年のわらしべ市では、完売することができるよう、宮原の人々の興味をひくような販売をしたい。

#### 【八代中2年: 寺岡拓海】

小布施の方たちは、とてもフレンドリーに話しかけて下さった。差し入れや「ありがとう」「がんばって」などの温かい言葉を頂き、とても安心したのが印象に残っている。

交流会では、「今できることをやる」といい」とアドバイスをもらい、好き嫌いせずチャレンジしようと思った。

#### 【氷川中1年: 稲本美聖】

これまで人と接する時、笑顔でいようと思ってもなかなか実行に移せなかった、小布施を訪れて、これから地域の人と接する時は笑顔を意識しようと思った。

また、話をする時に「いろいろ・・・」と言う癖があるが、それではわからないので、なるべく具体的なことを話すようにしたいと思う。

#### 【氷川中1年: 山本遥介】

### 第1回ひかわあかり展

〜竹灯笼が氷川の夜を彩る〜

- ・期日: 10月27日(日)
- ・時間: 18:00~21:00
- ・場所: 氷川町まちづくり酒屋  
Tel 53-5550
- ・その他: 甘酒、カレー、ホットドッグなどおいしい物を出店



## 長野県小布施町の復興支援・調査へ 農産物販売で、売上額61,000円を寄付



小布施町の6次産業センターで、ミカンなどを販売する課題解決コース3期生

まちの課題解決・探究コース3期生の中学生3人と弊店の岩本が小布施町を訪問し、10月19日は同町の6次産業センターでミカンやショウガを販売。売上げの61,000円を同町へ寄付し、翌日は町内散策などを行った。

### ◆小布施町との交流

平成11年、旧宮原町職員の行政視察を機に交流が始まり、双方で物産展を開催。その後、物産を中心とした民間交流に発展し、毎年12月には双方で「わらしべ市」を開催している。

また、熊本地震の折は、小布施町から民間団体のイベント収益金、議員と職員の方々から合計100万円ほどの義援金が氷川町へ送られている。

### ◆りんごの被害8400万円

同町では千曲川の河川敷などでりんごの栽培が盛んに行われているが、台風19号により千曲川が越流。23ヘクタールが浸水し、収穫を前にした農作物が被害を受け、りんごの被害額は8400万円を超えるようだ。

さらに、スマートインターチェンジが水没し、道の駅が営業停止になったほか、秋の観光シーズンでありながら観光客が激減。また、2つの直売所が被害を受け、農家はりんごやブドウなどの出荷先を失った。



泥水が流入し、畑のリんごが散乱

一方で、当初約50人いた避難所生活者は、町営住宅への移行などにより20人程度に減少したが、広域の下水道処理施設が浸水被害を受け、町内の8割で下水道施設が使え

ず、不自由な生活を送っている。

なお、ボランティア作業は地元住民中心で行い、10月27日をもてボランティアセンターは閉鎖される。

### ◆復興支援でミカンとショウガを販売

今回の訪問では、当初ボランティア作業を計画したが、週間天気予報が雨だったため6次産業センターで農産物の販売のみを行った。



小布施町役場の深川氏(宮原出身)と

用意したミカン80kgの内、20kgは避難所へ寄付し、ショウガ40kgとレモン20kgを販売。地元住民や観光客が買い求め、約3時間で完売し、売上げ額の61,000円を全額同町へ寄付した。

### ◆インターンOBらと交流会

19日の夜はインターンOBらと交流会を行い、課題解決コースの活動を紹介してアドバイスを受けた。

翌日は町内の北斎館等を散策し、街並みの美しさを学んだ。



インターンOBらと交流する子どもたち



### 【おもなプログラム】

- 午前中〜地元住民のステージ
- 13:00〜白百合高校吹奏楽
- 13:30〜君島遼のまねショー
- 14:10〜楽しみ抽選会

### 【問合せ先】

東陽支所地域振興課 65-2111

いんたな...  
①今年度の指揮者やや...  
君島遼  
Y月9〜9⑤③...  
水「罪」罪の罪甲申...  
を粉粉...  
5万、竹...  
50万、竹...  
の川の...  
の川の...  
②...  
③...  
④...  
⑤...  
⑥...  
⑦...  
⑧...  
⑨...  
⑩...  
⑪...  
⑫...  
⑬...  
⑭...  
⑮...  
⑯...  
⑰...  
⑱...  
⑲...  
⑳...  
㉑...  
㉒...  
㉓...  
㉔...  
㉕...  
㉖...  
㉗...  
㉘...  
㉙...  
㉚...  
㉛...  
㉜...  
㉝...  
㉞...  
㉟...  
㊱...  
㊲...  
㊳...  
㊴...  
㊵...  
㊶...  
㊷...  
㊸...  
㊹...  
㊺...  
㊻...  
㊼...  
㊽...  
㊾...  
㊿...

# 熊日クイズ (株)氷川のぎろっちょ



## 実李からの挑戦状

昨年度に引き続き、(株)氷川のぎろっちょの中高生が出題する熊日クイズを掲載します。問題の答えは、表面の下に掲載しています。中高生のみなさんは、読解力を付けるために、ぜひチャレンジしてみてください。また、記事の感想を簡単にまとめ、家族で話し合うこともいい勉強になると思います(\*^^)v

### 問題A:小学生用



川の模型を使って洪水の仕組みを学ぶ宮地小の5年生=八代市

### 八代市・宮地小 洪水の仕組み 模型で学ぶ

八代市の宮地小で7日、洪水の仕組みを学ぶ防災出前講座があった。5年生35人が校区を流れる水無川の模型を使って、宮地小は本年度、球磨川なを題材にした防災教育に全が。江崎沙弥さんは「本物の水無川がこうなったら、地域のみんなが大変な目に遭う。大雨の時は早めに避難するようにしたい」と話している。(益田大也)

大雨早めに避難しよう

大雨早めに避難しよう



### 問題B:共通

## くまモン

著:サダタロー / 監修:小川薫堂

羊毛



### 問題A:小学生用

#### ◆堤防の働き

- ① 防災出前講座には、宮地小のだれが参加した?
- ② ①の講座では何を学んだ?
- ③ 川を再現した手作り模型を持参したのはだれ?
- ④ 模型を使い、どのようにして川の氾濫を再現した?
- ⑤ 江崎沙弥さんは、大雨の時はどうすべきだと言っている?

### 問題A:中学生用

#### ◆脱プラスチック

- ① 社名のアマカテラは、どんな意味?
- ② アマカテラが熊本に進出を決めた理由は何?
- ③ アマカテラは、ストローを1日にどれくらい生産する予定?
- ④ アマカテラでは、生分解性プラスチックをどうやって作る?
- ⑤ アマカテラの製品は、土の中ではどれくらいで分解される?

### 問題B:共通

#### ◆羊毛

くまモンの4コママンガです。①のセリフを考えて下さい。  
※答えは、表面の下に掲載(\*^^)v

### 問題A:中学生用

## 脱プラ対応 県央に新工場



アマカテラが製造する生分解性プラスチックのストローや包装容器

### 竹など原料 生分解性ストロー製造

社名はラテン語で「地球に優しい」を意味するという。古賀社長「熊本出身は「脱プラスチック」は世界の時流。熊本から地球に優しい社会の実現を目指す」と話している。(中原功一朗)

微生物の働きによって自然界で分解される「生分解性プラスチック」を製造・加工するアマカテラ(東京)は7日、県央地域に工場を新設する計画を明らかにした。国内外で高まる「脱プラスチック」の需要に対応、食品包装にも原料に活用し、リサイクルにもつなげる考え。

### アマカテラ(東京) 来夏にも稼働

できた生分解性プラスチックはストローやフォーク、スプーン、皿、包装容器などの製品に加工する。同社によると、製品はマインナス20度〜120度の温度変化に耐えられ、耐用年数は2〜3年。土の中で3〜6カ月で完全に分解される。粉砕して再利用することも可能という。アマカテラは2016年設立で、国内外に製品を供給。ストローは、居酒屋チェーンのワタミが6月から店舗で導入した。現在、生産拠点は台湾のみで国内工場の開設は初めて。熊本は原料となる竹林が豊富な九州の中心に位置し、原料調達面などで地の利を生かせることで進出を決めた。

熊本工場は生分解性プラスチックの製造と加工の両方を担う。現在、建設地を話している。来年初めに着工、夏ごろに稼働させたい考え。

生分解性ストローを日産50万本製造できる設備を置く。木の屑、水を加えて作る。